

○谷口河川レンジャー 平成 27 年度年間活動計画

1. 活動の目的

淀川では人間の諸活動の影響により依然として多くの淡水魚類が絶滅危惧状態におかれている。しかし、近年、淀川では河口堰を超えて天然海産アユの稚魚の遡上が確認されるようになった。これは下水処理法などの技術的改善により水生生物環境が回復傾向にあるためと考えられている。このような天然アユの復活の兆しは淀川の環境保全活動における朗報であり、ここでそれらの現状と動態を把握することは、今後の淀川の生物環境と生物多様性の保全における本格的復活に道を開く可能性を包含している。

私の河川レンジャー活動においては、淡水魚資源の復活とそれらの保全を目指して、流域住民とともに現状把握につとめさらなる進展に向けて環境の改善策を提起することを目的とする。このような課題への初歩的取り組みとして、アユをはじめとする淡水魚の生物学的、生態学的特性を知るための体験型実践活動を企画する。次に、河川の流域住民、漁民、学術研究者の参加を得て、アユを中心とする淡水魚の復活に関する総合的意見交換会を実施し、淀川の環境の本格的復活を促進できるよう最良の解決策の創出および提案を試みる。

2. 活動の目標

Step1. 淡水魚(特にアユ)の生物学的特性と環境に関する実践的学習活動の実施

- 1) アユなどの淡水魚の捕獲・釣獲を介して、それらの生態的生理的特性について体感する経験を積み上げる。
- 2) アユなどの淡水魚の餌となる底生生物、藻類、底石の付着藻類などを採取・定量し、アユなどの餌料供給と高速成長の秘密を探る。
- 3) 親子友釣り大会でアユの習性を学び、アユの生き様を体感する。また、淡水魚の小物釣りを親子で体験させ、アユやその他の淡水魚への関心を育くみ、それらの生息する河川環境に関心をもつ契機を提供する。
- 4) 産卵場の探索とアユの捕獲を試み、産卵場となる条件と場所を特定する方法を学ぶ。

Step2. 魚類と河川の諸特性の相互作用に関する現地実習と問題の発掘

- 1) 現存のダム(堰)および魚道を見学し当該魚道の機能性について検証し、機能不全の魚道についてはその原因を解明する。
- 2) アユが生息する河川環境について、アユが生息する川(支流)と生息しない川(支流)の水質および底質の比較調査を実施する。
- 3) アユが産卵する瀬の条件に関して、親魚の採捕と採卵を実施する中で、優れた産卵場と劣悪な産卵場の条件について比較検討を行い、その答えを探る。

Step-3. 問題の特定と解決策の提言

- 1) 天然アユの遡上の現地観察と淀川大堰の魚道を有効にするための運用技術に関する意見交換を実施し、有効な方法を提案する。
- 2) 現場視察をとおして、資源の保全を視野にいれた遊漁の有り方に関する意見交換と提言をおこなう。
- 3) 自然産卵場の比較検討と産卵促進のための保護水面の検討と提案、自然産卵場のない支流においては産卵場の蘇生法について提言する。
- 4) 淀川の天然アユの復活のための総合的提言を行う。

3. 活動の概要

	活動内容	実施時期 (任命期間/年次)				
		試行	1期		2期	
		1	2	3	4	5~RA
<p>Step1 地域住民の関心を高める (淡水魚の生物学的特性と環境に関する実践的学習活動の実施)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① アユ学のすすめ：アユを観察材料として淡水魚の特性を概説し、その生態的生理的特性について学ぶ。(伏見出張所会議室) ② 淀川大堰の遡上魚の現地観察会：魚道におけるアユ稚魚の遡上状況を観察し、自動計数の仕組みについて見学する(毛馬出張所)。 ③ アユの摂餌生態：縄張りアユと群れアユの行動を観察する。上流の瀬の底石に付着している藻類を採取・定量し、餌生物のカロリー量を推定する。アユの高成長を支えるメカニズムに関する理解を深める。(大河原潜水橋周辺) ④ 友釣り体感会：友釣りを通じてアユの生き様を体感する。(木津川中流域) ⑤ 産卵場の探索とアユの捕獲作戦：産卵場となる適地の条件について学ぶ。(木津川市加茂町銭司の河川敷) ⑥ 宇治川の魚、釣ってみよう飼ってみよう(伏見みなと公園内) 					
<p>Step2 河川レンジャーと管理者が協働して取り組む (魚類と河川の諸特性の相互作用に関する現地実習と問題の発掘)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 宇治川派流(濠川下流)における稚アユの生息、成長に関する調査 ② 中流域の取水堰(ダム)および魚道の見学：魚道の実物を見学し、その仕組みに関する説明を受け、当該魚道がなぜ機能しないかについてその原因を探る。 ③ 淀川大堰および毛馬閘門へ到達したアユ稚魚が魚道を通り過ぎるため効果的施工について検討する。 ④ 淀川三川の流下仔魚の流下状況の観測により翌年のアユ稚魚の遡上予測の可能性を探る 					
<p>Step3 地域住民から行政へ発信する仕組みを構築 (問題の特定と解決策の提言)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 淀川大堰および毛馬閘門におけるアユ稚魚の遡上促進のための施策の考案 ② ダム(堰)および魚道の見学：魚道の実物を見学し、その仕組みに関する検討と効果的簡易魚道の提案(事例：南山城村やまなみホールおよび相楽発電所取水堰) ③ 淀川三川のアユ産卵場を特定し、親魚と孵化仔魚の保全のため産卵期間中の禁漁の区間と期間について提案するとともに合意形成のための検討会を実施する 					

4. 平成 27 年度活動内容

平成 27 年度の活動一覧

活動分野	活動名	実施時期
河川環境の保全を図る活動	① 宇治川派流(濠川下流域)におけるアユの復活のための条件に関わる調査	①4～12月
	② 親子友釣り体験会:友釣りを通じてアユの生き様を体感する。(木津川)	②7月
	③ 宇治川の魚、釣ってみよう飼ってみよう(伏見みなと公園内)	③10月
河川行政と地域・住民・住民団体とのコーディネートを図る活動	④ 淀川大堰における天然アユ稚魚の遡上促進に関する意見聴取および提案	④5月

平成 27 年度の活動一覧 (連携活動)

活動分野	活動名	実施時期
河川環境の保全を図る活動	① 淀川大堰および毛馬閘門における天然海産アユの遡上状況の観察と遡上数の自動計数の仕組みに関する現地見学会。	①5月
	② 産卵場の探索とアユの捕獲作戦:産卵場となる適地の条件について学ぶ。	②9月
河川行政と地域・住民・住民団体とのコーディネートを図る活動	① ダム(堰)および魚道の視察および検討会:魚道の実物を見学し、その仕組みに関する検討と効果的簡易魚道の提案(南山城村やまなみホールおよび相楽発電所取水堰)	①8月
	② 淀川三川のアユ産卵場を特定し、親魚と孵化仔魚の保全のための産卵期間中の禁漁区域を提案と合意形成のための意見交換会の実施	②9月
	③ 淀川三川の流下仔魚の流下状況の観測により翌年のアユ稚魚の遡上予測に関する学習	③12月

■活動を実施していく上での課題

河川環境保全を図る活動のうちの第1項目の「宇治川派流(濠川下流域)におけるアユの復活のための調査」は実施に向けて、クリアすべき問題が残されている。

課題1. 濠川下流域における漁業権について調査し、関係者に活動内容を説明する必要がある。

課題2. 本活動の妥当性について、濠川の河川管理者および京都市水道局に問い合わせる必要がある。

課題3. 試験放流するアユ種苗のコストおよび入手法に関する検討

1. 京都府農林水産部水産課へ濠川の漁業権に関して問い合わせる。

2. 河川管理者および京都市水道局への本活動の説明と妥当性に関して問い合わせる。

3. アユの放流用種苗の価格とその費用に関すること。

4. 放流効果の調査法とその妥当性に関すること。

5. 種苗放流の経験者への意見聴取。

4. 1 宇治川派流(濠川下流域)におけるアユの復活のための調査

(1) 活動目的

本課題は、宇治川派流（濠川下流）には昔から天然アユが生息していたということが知られている。このアユを復活させるために必要な基礎的情報収集と調査活動を行う。基礎的情報の収集は流域住民とともに実施し、濠川にアユを復活させる可能性に関する検討を行う。活動範囲は濠川の住吉堰堤から下流約6kmで、この区間の下見調査を実施する。視察当日は現地調査終了後、担当河川レンジャーは参加者に対し既知情報を提供した上で、具体的計画案を提示・検討を進める。さらに、この計画をさらに推進するため、企画案を策定し「京都市伏見区の活動支援事業」へ応募することに関して参加者の間で検討する。

活動実施スケジュール

		実 施
平成 27 年	4月	宇治川派流（濠川下流域）における稚アユの放流効果に関する現地調査
	5月	H26年度 伏見区民活動支援事業への応募、アユ種苗の試験放流
	6月	アユの成長と生残についての目視調査
	7月	アユの成長と生残についての目視調査
	8月	アユの成長と生残についての目視調査および試験捕獲
	9月	
	10月	
	11月	
	12月	宇治川派流（濠川下流域）における稚アユの放流効果に関する予備的調査のまとめと本格調査実施の可能性に関する検討会
平成 28 年	1月	
	2月	
	3月	

(2) 連携等

- ① 宇治川派流における稚アユの放流効果に関する予備的調査（濠川下流域）
- ② 京の川の恵みを活かす会：検討会、目視調査
- ③ 伏見楽舎：検討会、目視調査
- ④ 日本釣り振興会：検討会、目視調査、種苗放流、試験調査
- ⑤ 京淀漁協：目視調査、試験捕獲

(3) 参加対象者・定員

- ① 宇治川派流における稚アユの放流効果に関する予備的調査（濠川下流域）
- ② アユの成長と生残についての目視調査3回
- ③ 本調査の展開の可能性検討会

参加対象：各回 地域住民、連携市民
参加者数：各回 10名

(4) 実施内容

- ① 宇治川派流における稚アユの放流効果に関する予備的検討会（濠川下流域）
- ② アユの成長と生残についての目視調査3回
- ③ 本調査への展開の可能性検討会

(5) 実施日

第1回	宇治川派流における稚アユの放流に関する事前調査	H27年4月18日
第2回	区民活動支援事業への調査計画の応募	H27年5月10日
第3回	アユ種苗の試験放流	H27年5月15日
第4回	アユの成長・生残の目視調査	H27年6月～8月
第5回	試験捕獲	H27年8月～9月
第6回	本調査への展開の可能性検討会	H27年10月未定

(6) 実施場所

- 第1回 宇治川派流における予備的調査：伏見出張所会議室および濠川の住吉堰堤から三栖閘門まで約6kmの区間
- 第2回 伏見区役所
- 第3回 濠川の住吉堰堤から三栖閘門までの約6kmの区間
- 第4回 濠川の住吉堰堤から三栖閘門までの約6kmの区間
- 第5回 濠川の住吉堰堤から三栖閘門までの約6kmの区間
- 第6回 伏見出張所会議室

(7) 安全対策

宇治川派流における稚アユの放流効果に関する予備的調査の現地活動においては各回、河川レンジャースタッフがこれに当たる。

(8) 協カスタッフ等の人数とその役割

- ① 担当河川レンジャー：第1回から第5回まで 1名
- ② スタッフレンジャー：第1回から第5回まで1～2名
- ③ 日本釣り振興会：第1回から第5回まで 1名
- ④ 京淀漁協：第1回から第5回まで 1名

(9) 広報・募集方法

- ① 各回のチラシ作成、配布
- ② 淀川河川レンジャーホームページの新着情報により発信
- ③ ファックスまたは電子メールによりレンジャー事務所へ申し込む

(10) 活動における河川レンジャーの活動内容

- ① 担当河川レンジャー：活動内容の企画、企画の実施および統括を担当
- ② スタッフ河川レンジャー：参加者の安全な誘導、アクセスの確保、内容の説明補助

(11) その他

4.2 淀川大堰におけるアユ稚魚の遡上促進に関する試案検討会 (河川行政と地域・住民・住民団体とのコーディネートと図る活動)

(1) 活動目的

淀川大堰は流域の環境と淡水魚の生活を重視すべき阻害要因の一つである。天然海産アユの稚魚の溯上の障壁として極めて重要である。中でもアユを中心とする淡水魚の往来阻害の問題に関して、河川の流域住民、漁民、学術研究者の参加を得て、総合的意見交換会を実施する。このような意見交換を通じて、淀川大堰まで戻ってきた天然アユを溯上させるため実行可能な具体的方策の作成を目指す。

活動実施スケジュール

		実 施
平成 2 7 年	4月	
	5月	淀川大堰におけるアユ稚魚の溯上促進に関する検討会
	6月	
	7月	
	8月	
	9月	
	10月	
	11月	
	12月	
平成 2 8 年	1月	
	2月	
	3月	

(2) 連携等

資料作成：谷口

チラシ作成：谷口

参加者募集：谷口

漁協・その他の協力団体との交渉：谷口

淀川大堰におけるアユ稚魚の溯上促進のための試案の作成：谷口

アユの魚道の設計上の技術的情報提供：京の川の恵みを活かす会

(3) 参加対象者・定員

検討委員 5名 + 一般参加 5名

(4) 実施内容

- ① 淀川大堰および毛馬閘門におけるアユ稚魚の遡上状況
- ② 構造上の問題点
- ③ 遡上促進に必要な要因
- ④ 遡上促進法に関する意見交換と具体案の検討

(5) 実施日

H27年5月13日

(6) 実施場所

淀川管内河川事務所、伏見出張所会議室

(7) 安全対策

活動は会議形式であるため安全対策は不要

(8) 協カスタッフ等の人数とその役割

会議室の設営、資料作成、液晶プロジェクター、スクリーン

(9) 広報・募集方法

- ① 各回のチラシ作成、配布
- ② 淀川河川レンジャーホームページの新着情報により発信
- ③ ファックスまたは電子メールによりレンジャー事務所へ申し込む

(10) 活動における河川レンジャーの活動内容

担当河川レンジャー:活動内容の企画、企画の実施および統括を担当

(11) その他

4. 3 友釣り親子体験会（友釣りを通じて河川環境とアユの生物特性を体感する）

(1) 活動目的

本活動は、親子でアユの友釣りを体験し、アユと川に親しむなかで、川に対する愛着を育むことを目的とする。このような体験会は木津川の中流域（京都府南山城村大河原）にて実施する。親子の参加者の他、漁協関係者、釣りインストラクター、シニア活動家などがこの企画に協力して参加する中で、川とアユに対する愛着と理解をさらに深めることが期待できる。

活動実施スケジュール

		実 施
平成 2 7 年	4月	
	5月	木津川中流域の漁場（2か所）の専用的利用に関する同意を得るため、木津川漁業協同組合事務所の組合長および参事を表敬訪問する。
	6月	友釣りの道具類の準備、釣り場の目視による事前調査などの実施
	7月	親子友釣り体験会：インストラクターによる友釣りの指導を受け、実釣を通じてアユの生き様を体感する。
	8月	
	9月	
	10月	
	11月	
	12月	
平成 2 8 年	1月	
	2月	
	3月	

(2) 連携等

- ① 日本釣り振興会（公益財団法人）：インストラクターの派遣、友釣り機材の貸与、河川敷のクリーン作戦の指導
- ② 木津川漁協：漁場の河川敷整備、親子参加者の安全確保要員の派遣
- ③ 京の川の恵みを活かす会：瀬の中に展開した親子の安全確保に努める

(3) 参加対象者・定員

参加対象： 淀川流域住民（親子で参加受付）

参加者数： 10組、20名

(4) 実施内容

- 1) 友釣りポイント（木津川）に集合
- 2) 友釣り場の河川特性の説明
- 3) 仕掛けと装着の説明
- 4) 鼻カンの装着の練習
- 5) 実釣
- 6) 取り込みの説明と練習
- 7) 釣魚の保存法を習う
- 8) 活動終了後の河川敷の清掃を行う。

(5) 実施日

H27年7月18日

(6) 実施場所

木津川中流（京都府相楽郡南山城村）の大河原の潜水橋の上下の瀬、飛鳥路潜水橋の上下の瀬

(7) 安全対策

友釣りのため入川する参加は全員、ライフジャケットを着用する。

(8) 協カスタッフ等の人数とその役割

木津川の漁協関係者および京の川の恵みを活かす会のメンバー、河川レンジャースタッフは参加者の安全監視に当たる。

(9) 広報・募集方法

- ① 各回のチラシ作成、配布
- ② 淀川河川レンジャーホームページの新着情報により発信
- ③ ファックスまたは電子メールによりレンジャー事務所へ申し込む

(10) 活動における河川レンジャーの活動内容

- ① 担当河川レンジャー：活動内容の企画、企画の実施および統括を担当
- ② スタッフレンジャー：事前に決められた担当部分に関して企画、実施を分担する。

(11) その他

4. 4 宇治川の魚、釣ってみよう飼ってみよう

(1) 活動目的

本活動は、親子で淡水魚の小魚釣りを体験し、川に親しみ川に対する愛着を育むことを目的とする。この体験会は宇治川派流（濠川）の伏見港公園内の安全な場所にて実施される。この企画参加者親子、漁協関係者、釣りインストラクター、シニア活動家などの協力を得て実施するもので、参加者全員において川と淡水魚に対する愛着と理解が深められることが期待される。

活動実施スケジュール

		実 施
平成 27 年	4月	
	5月	
	6月	
	7月	
	8月	
	9月	現地事前調査：インストラクターによる試釣および打ち合わせ
	10月	親子釣り大会「宇治川の魚、釣ってみよう飼ってみよう」の開催
	11月	
	12月	
平成 28 年	1月	
	2月	
	3月	

(2) 連携等

- ① 日本釣り振興会（公益財団法人）：釣り具の貸与、河川敷のクリーン作戦の指導
- ② 伏見楽舎メンバー：参加者（親子）の水辺の安全の担当およびインストラクター（参加者の補助）
- ③ 京の川の恵みを活かす会：参加者の安全確保

(3) 参加対象者・定員

参加対象： 淀川流域住民（親と子で参加）
参加者数： 10組、20名

(4) 実施内容

- 宇治川派流の魚、釣ってみよう飼ってみよう
- 1) 伏見みなと公園に集合
 - 2) 宇治川派流の魚の説明
 - 3) 小物釣り仕掛けの装着
 - 4) 釣魚の鑑定
 - 5) 循環水槽の設置と管理法の説明
 - 6) 魚の収容と飼育上の注意
 - 7) 表彰式

(5) 実施日

H27年10月24日

(6) 実施場所

京都市伏見区伏見みなと公園

(7) 安全対策

伏見楽舎へ協力依頼

(8) 協スタッフ等の人数とその役割

担当河川レンジャー（運営）、スタッフ河川レンジャー（釣りの指導、応援）、伏見楽舎メンバー（安全監視）、京の川の恵みを活かす会メンバー（釣り指導）

(9) 広報・募集方法

- ① 各回のチラシ作成、配布、
- ② 淀川河川レンジャーホームページの到着情報により発信
- ③ ファックスまたは電子メールによりレンジャー事務所へ申し込む

(10) 活動における河川レンジャーの活動内容

- ① 担当河川レンジャー：活動内容の企画、企画の実施および統括を担当
- ② スタッフレンジャー：事前に決められた担当部分に関して企画、実施を分担する。

(11) その他

5.1 淀川大堰および毛馬閘門における天然海産アユの遡上の現地見学会

■連携する河川レンジャー名

伏見官内河川レンジャー：谷口 順彦
木津川管内河川レンジャー：柴垣 治男

■連携理由

本レンジャー企画は谷口 R と柴垣 R が連携してそれぞれの専門性を活かしながら淀川の天然遡上アユの復活をめざして、実践的学習活動を計画・実施する。谷口 R はアユの生物特性に関する専門的知見を、柴垣 R はアユの漁業に関する専門的知見を備えており、両者の専門性の協働により魅力的な実践的企画を創出・実行する。企画の実施に当っては、参加者への呼びかけ、漁協の協力を得るための交渉、当日使用するグッズの準備などにおいては連携レンジャーが分担するなど、総合的に協力して実施に当たる。

■連携における河川レンジャー間の役割分担

資料作成：谷口、柴垣

チラシ作成：谷口

参加者募集：谷口、柴垣

漁協・その他の協力団体との交渉：柴垣

当日の参加者の掌握：谷口、柴垣、スタッフ

安全確保：柴垣、谷口、スタッフ

当日の会の進行：柴垣（谷口）

実施内容の説明：谷口、柴垣

現地活動（見学ポイントの案内、見学の要点の説明、今年の遡上動向の説明と過去の遡上との対比、大堰魚道の問題点などの論議）：谷口、柴垣

(1) 活動目的

「淀川の河川環境の保全と図る活動シリーズ」の1番目連携活動で、その内容は「淀川大堰の魚道におけるアユ稚魚の遡上状況を観察と遡上アユの自動計数の仕組みに関する見学」である。本課題は、淀川の天然アユを復活させるための基礎的知見を見学により体得することにある。参加者とともに遡上する稚アユを観察し、観察終了後、参加者は河川レンジャーとして得た情報を提供され、淀川の天然アユの本格的復活に向けて具体的な改善法について学ぶとともに意見交換を行う。

活動実施スケジュール

		実 施
平成 2 7 年	4月	淀川大堰の遡上魚現地観察会の下見および参加者のアクセスの検討
	5月	淀川大堰の遡上魚現地観察会：魚道におけるアユ稚魚の遡上状況を観察し、自動計数の仕組みについて見学し、参加者間で意見交換する。
	6月	
	7月	
	8月	
	9月	
	10月	
	11月	
	12月	
平成 2 8 年	1月	
	2月	
	3月	

(2) 連携等

京の川の恵みを活かす会：現地案内と魚道の説明

(3) 参加対象者・定員

参加対象：地域住民、定員：20名

(4) 実施内容

- 1) 淀川大堰右岸河川敷に集合
- 2) アユ稚魚の遡上状況を観察
- 3) 自動計数の仕組みを見学、毛馬閘門における稚魚の蝸集を観察
- 4) アユ稚魚の遡上成功率の向上について考察

(5) 実施日

H27年5月9日（土曜日）

(6) 実施場所

淀川大堰右岸河川敷および左岸の淀川河川事務所毛馬出張所

(7) 安全対策

堰堤橋梁上から観察の場合：転落防止などの対策としてヘルメットを着用する。

(8) 協カスタッフ等の人数とその役割

担当河川レンジャー2名、協カスタッフ2名：見学コースの案内および見学ポイントの説明

(9) 広報・募集方法

① 各回のチラシ作成、配布

② 淀川河川レンジャーホームページの到着情報により発信

申し込み方法：ファックスまたは電子メールによりレンジャー事務所へ申し込む

(10) 活動における河川レンジャーの活動内容

① 担当河川レンジャー：活動内容の企画、企画の実施および統括を担当

② 連携河川レンジャー：事前に決められた担当部分に関して企画、実施を分担する

(11) その他

5. 2 ダム(堰)および魚道の視察および検討会

■連携する河川レンジャー名

伏見管内河川レンジャー 谷口 順彦
木津川管内河川レンジャー 柴垣 治男

■連携理由

レンジャー企画「淀川の天然遡上アユの復活をめざして」は、谷口 R と柴垣 R が連携してそれぞれの専門性を活かしながら実践活動を計画する。谷口 R はアユの生物特性に関する専門的知見を有し、柴垣 R はアユ漁業を通じて発電用堰堤に設置されている魚道の機能に関して詳しい知識を備えており、本企画を遂行するにあたっては両者の専門性を活かして実践的企画を実行する。企画の実施に当たっては、参加者への呼びかけ、漁協の協力を得るための交渉、当日使用するグッズの準備などにおいては両レンジャーおよびスタッフレンジャーが分担・協力する。

■連携における河川レンジャー間の役割分担

資料作成：谷口、柴垣
チラシ作成：谷口
参加者募集：柴垣、谷口
漁協・その他の協力団体との交渉：柴垣
当日の参加者の掌握：谷口、柴垣、スタッフ
安全確保：柴垣、谷口、スタッフ
見学の現地の案内：柴垣、谷口
当日の会の進行：柴垣（谷口）
実施内容の説明：谷口、柴垣

(1) 活動目的

淀川環境と淡水魚の溯上を阻害する要因に関する情報を収集し、それらに対する効果的対策の工法について提起する。個々の問題の解決ためのカギとなる要因をテーマとして設定し、流域住民、漁民、学術研究者の参加を得て、総合的意見交換会を実施する。中でもアユを中心とする淡水魚の復活に関しては、天然アユの正常な成育の促進を実現できるよう問題の理解を深め、最良の解決にむけて具体案を創出する。

活動実施スケジュール

		実 施
平成 27 年	4月	
	5月	
	6月	
	7月	相楽発電所取水堰堤の下見（京都府相楽郡南山城村）
	8月	ダム(堰)および魚道の視察および検討会：魚道の構造に関する図、その仕組みに関する検討と効果的簡易魚道の試案の提案
	9月	
	10月	
	11月	
	12月	
平成 28 年	1月	
	2月	
	3月	

(2) 連携等

京の川の恵みを活かす会：：魚道その仕組みに関する知見提供、簡易魚道の提案
 招聘講師：簡易型魚道（寄せ石魚道）の設計に詳しい専門家

(3) 参加対象者・定員

流域住民、内水面漁業関係者、専門家と検討委員として参加要請する。
 定員：10名

(4) 実施内容

ダム(堰)および魚道の実物を事前に見学した上で、検討会を実施する。検討会当日は現魚道の仕組みに関する問題点について意見交換し、効果的簡易魚道を提案する。

(5) 実施日

H27年8月22日（土）

(6) 実施場所

ダム(堰)および魚道の視察および検討会： 淀川管内河川事務所伏見出張所

(7) 安全対策

会議室のため特になし

(8) 協力スタッフ等の人数とその役割

簡易魚道の専門家、担当河川レンジャー、連携河川レンジャー、京の川の恵みを活かす会員の簡易魚道の設計経験者

(9) 広報・募集方法

- ① 各回のチラシ作成、配布、
- ② 淀川河川レンジャーホームページの新着情報により発信
- ③ ファックスまたは電子メールによりレンジャー事務所へ申し込む

(10) 活動における河川レンジャーの活動内容

- ① 担当河川レンジャー：活動内容の企画、企画の実施および統括を担当、討議資料作成
- ② 連携河川レンジャー：事前に決められた担当部分に関して企画、実施を分担する

(11) その他

5. 3 木津川のアユ産卵場の親魚保護区の検討会：産卵場を特定し、親魚と孵化仔魚保全のため産卵期間中の禁漁区域を提案と試案の検討会を実施

■連携する河川レンジャー名

谷口 順彦
柴垣 治男

■連携理由

レンジャー企画「木津川のアユ産卵場の親魚保護区の検討会」は、谷口 R と柴垣 R が連携してそれぞれの専門性を活かしながら活動内容を計画し、実施する。本活動は「河川行政と地域・住民・住民団体とのコーディネートを図る活動として位置づけられており、谷口 R（アユの生理・生態に関する専門的知見）と柴垣 R（アユの漁獲に関する専門的知見）の得意分野を活かして企画を遂行する。また、企画の実施に当たっては、漁協の役員、遊漁者、産卵場に近隣する地域代表に参加を呼びかける。これらの参加を得るための交渉、当日使用資料の準備などにおいて連携レンジャーはスタッフレンジャーの協力を得て、総合的に協力して実施に当たる。

■連携における河川レンジャー間の役割分担

資料作成：谷口
チラシ作成・配布：谷口（柴垣）
参加者募集：柴垣、谷口
漁協・その他の協力団体との交渉：柴垣
当日の会の進行：柴垣（谷口）
実施内容の説明：谷口、柴垣
活動の要約の作成：谷口、柴垣

（1）活動目的

「木津川のアユ産卵場の親魚保護区の検討会」は、「河川行政と地域・住民・住民団体とのコーディネートを図る活動として位置づけられる。淀川の天然アユの保全においてアユ産卵場の保全と親魚の保護は極めて重要な課題である。本企画では谷口 R（アユの生理・生態に関する専門的知見）と柴垣 R（アユの漁獲に関する専門的知見）の得意分野を活かしてアユの産卵期の捕獲制限の時期と場所を検討することが目的である。このため、企画の実施に当たっては、漁協の役員、遊漁者、産卵場に近隣する地域代表に参加を呼びかける。これらの参加を得るための交渉、当日使用資料の準備などにおいて連携レンジャーはスタッフレンジャーの協力を得て、総合的に協力して実施に当たる。

活動実施スケジュール

		実 施
平成 27 年	4月	
	5月	
	6月	
	7月	
	8月	
	9月	木津川のアユ産卵場の親魚保護区の検討会：産卵場を特定し、親魚と孵化仔魚の保全のため産卵期間中の禁漁区域を提案と試案の検討
	10月	
	11月	
	12月	
平成 28 年	1月	
	2月	
	3月	

(2) 連携等

京の川の恵みを活かす会：淀川三川のアユ産卵場に関する情報提供

(3) 参加対象者・定員

検討委員 10名

(4) 実施内容

淀川三川のアユ産卵場を特定し、親魚と孵化仔魚の保全のため産卵期間中の禁漁区域を提案と合意形成のための検討会実施

(5) 実施日

H27年9月12日

(6) 実施場所

伏見出張所：淀川三川のアユの産卵期間中の禁漁区域の検討と提案

(7) 安全対策

1～4の活動は会議形式であるため安全対策は不要

(8) 協力スタッフ等の人数とその役割

親魚と孵化仔魚の保全のため産卵期間中の禁漁区域の合意形成のための原案検討

(9) 広報・募集方法

- ① 各回のチラシ作成、配布、
- ② 淀川河川レンジャーホームページの到着情報により発信
ファックスまたは電子メールによりレンジャー事務所へ申し込む

(10) 活動における河川レンジャーの活動内容

- ① 担当河川レンジャー：活動内容の企画、企画の実施および統括を担当
- ② 連携レンジャー：事前に決められた担当部分に関して企画、実施を分担する。

(11) その他

5. 4 木津川のアユ産卵場の探索とアユ捕獲作戦：産卵場となる適地の条件について学ぶ (木津川市加茂町銭司の河川敷)

■連携する河川レンジャー名

谷口 順彦
柴垣 治男

■連携理由

レンジャー企画「木津川のアユ産卵場の探索とアユ捕獲作戦」は、谷口 R と柴垣 R が連携してそれぞれの専門性を活かして淀川のアユの産卵場の保全に結びつく実践活動を計画する。柴垣 R のアユの漁獲に関する専門的知見はアユの捕獲作戦において活かされ、谷口 R のアユの生理・生態に関する専門的知見はアユの産卵場の探索において活かされる。本企画の実施に当たっては、参加者への呼びかけ、漁協の協力を得るための交渉、当日使用するグッズの準備などにおいては両レンジャーおよびスタッフレンジャーが分担し、総合的に協力して実施に当たる。

■連携における河川レンジャー間の役割分担

資料作成：谷口
チラシ作成：谷口、(柴垣)
参加者募集：柴垣、谷口
漁協・その他の協力団体との交渉：柴垣
当日の参加者の掌握：谷口、柴垣、スタッフ
安全確保：柴垣、谷口、スタッフ
当日の会の進行：柴垣(谷口)
実施内容の説明：谷口、柴垣
現地活動：河川内の案内、アユ漁獲(オトシガワ漁)の実施：柴垣
産卵場の環境、産卵基盤の見学、アユの試料採集、現地での解剖所見の説明：谷口

(1) 活動目的

レンジャー企画「木津川のアユ産卵場の探索とアユ捕獲作戦」は、谷口 R と柴垣 R が連携してそれぞれの専門性を活かして淀川のアユの産卵場の保全に結びつく実践活動を計画する。アユの産卵場の探索においては産卵場の環境特性を体感するため産卵場候補となる瀬の中に入って砂利の正常と粒径など瀬の底質の性状について観察し、体感する。また、産卵場付近の瀬に集結を始めている親魚を試験採捕(伝統漁法オトシガワ漁)による採捕し、標本として保存される。また、現地で解剖し成熟状況を確認する。この活動で得られた知見は、後に、アユ産卵期の禁漁の検討と意見交換会において情報・資料として必要なることが期待される。

活動実施スケジュール

		実 施
平成 27 年	4月	
	5月	
	6月	
	7月	
	8月	
	9月	産卵場の探索とアユの捕獲作戦：産卵場となる適地の条件について学ぶ。 (木津川市加茂町銭司の河川敷)
	10月	
	11月	
	12月	
平成 28 年	1月	
	2月	
	3月	

(2) 連携等

京の川の恵みを活かす会：淀川三川のアユ産卵場に関する情報提供

(3) 参加対象者・定員

一般参加者 10名

(4) 実施内容

木津川のアユ産卵場を数地点選定し、それらを視察し評価する。また、産卵場の候補地において親魚の現存量と成熟状況を推定するためオトシガワ漁による試験採捕を実施する。採捕したアユの一部は現地で解剖し、それらの成熟状態を確認する。また、個体データ測定用として、保存用標本採集を実施する。

(5) 実施日

H27年9月19日

(6) 実施場所

産卵場の現地見学は木津川の山城町から加茂町付近の平瀬、数か所。
成熟アユの試験採捕は加茂町銭司において実施する。

(7) 安全対策

河川内へは試験採捕に関わるレンジャーとその補助者がウェットスーツを着用。
産卵場の瀬に入る参加者はウェダーを着用する。
スタッフレンジャーは参加者の安全を監視する。

(8) 協カスタッフ等の人数とその役割

協力参加者：オトシガワの補助
スタッフレンジャー：参加者の安全監視

(9) 広報・募集方法

- ① 各回のチラシ作成、配布
- ② 淀川河川レンジャーホームページの新着情報により発信
- ③ ファックスまたは電子メールによりレンジャー事務所へ申し込む

(10) 活動における河川レンジャーの活動内容

- ① 担当河川レンジャー：活動内容の企画、企画の実施および統括を担当
- ② 連携河川レンジャー：事前に決められた担当部分に関して企画、実施を分担する。

(11) その他

5. 5 木津川の流下仔魚の流下状況の観測と検討会

■連携する河川レンジャー名

谷口 順彦
柴垣 治男

■連携理由

レンジャー企画「木津川の流下仔魚の流下状況の観測と検討会」は、谷口 R と柴垣 R が連携してそれぞれの専門性を活かしながら活動内容を計画し、実施する。本活動は「河川行政と地域・住民・住民団体とのコーディネートを図る活動として位置づけられる。谷口 R（アユの生理・生態に関する専門的知見）と柴垣 R（アユの漁獲に関する専門的知見）の得意分野を活かして企画を遂行する。また、企画の実施に当たっては、漁協の役員、遊漁者、産卵場に近隣する地域代表に参加を呼びかける。これらの参加を得るための交渉、当日使用資料の準備などにおいて連携レンジャーはスタッフレンジャーの協力を得て実施に当たる。

■連携における河川レンジャー間の役割分担

資料作成：谷口
チラシ作成：谷口、（柴垣）
参加者募集：柴垣、谷口
当日の参加者の掌握：谷口、柴垣、スタッフ
安全確保：柴垣、谷口、スタッフ
当日の会の進行：柴垣（谷口）
実施内容の説明：谷口、柴垣
現地活動（河川内の案内、試料採集、魚の漁獲など）：谷口、柴垣

（1）活動目的

淀川環境と淡水魚の生活を阻害する要因に関する情報を収集し、それらを抑制するための効果的対策の実行法について提起する。本活動は木津川のアユ仔魚の流下状況にもとづく翌年の稚魚遡上予測法の試案の検討を目指している。河川の流域住民、漁業協同組合、学術研究者など関係者の参加を得て、総合的意見交換会を実施し、翌年の天然アユ遡上量の予測法に関して議論を深める。

活動実施スケジュール

		実 施
平成 27 年	4月	
	5月	
	6月	
	7月	
	8月	
	9月	
	10月	
	11月	木津川の流下仔魚の流下状況の観測：京の川の恵みを活かす会と共催
	12月	淀川三川の流下仔魚の流下状況にもとづく翌年の天然アユ遡上量の予測とその予測法の検討
平成 28 年	1月	
	2月	
	3月	

(2) 連携等

京の川の恵みを活かす会：淀川三川のアユ産卵場に関する協働および情報提供

(3) 参加対象者・定員

検討委員 5名および一般参加 5名

(4) 実施内容

木津川のアユ仔魚の流下状況にもとづく翌年の稚魚遡上予測法の試案の検討

(5) 実施日

H27年 11月 14日

(6) 実施場所

伏見出張所会議室

(7) 安全対策

1～4の活動は会議形式であるため安全対策は不要

(8) 協力スタッフ等の人数とその役割

京の川の恵みを活かす会、淀川三川の漁業協同組合、学術研究関係者、流域住民などの淀川の海産アユの溯上に関心のある参加者を募り検討委員として意見を相互交換する。

(9) 広報・募集方法

- ① 各回のチラシ作成、配布、
- ② 淀川河川レンジャーホームページの新着情報により発信
ファックスまたは電子メールによりレンジャー事務所へ申し込む

(10) 活動における河川レンジャーの活動内容

- ① 担当河川レンジャー：活動内容の企画、企画の実施および統括を担当
- ② 連携レンジャー：事前に決められた担当部分に関して企画、実施を分担する。

(11) その他